

2006年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2007年 1月 25日

I 概要

実践団体・担当者名	阪神・淡路大震災まち支援グループ まち・コミュニケーション（担当者： 戸田真由美）	
連絡先	078-578-1100	
プランタイトル	震災の教訓を活かした現地防災学習	
目的	1. 地域住民の融和と自己の向上、さらに話術の向上を目指し、 2. 修学旅行生に対し、防災教育を受けて防災心を身につけてもらう	
プランの概略	<p>1. 語り部としての技術の向上のための</p> <p>1-a. 見学・視察（人と防災未来センター）</p> <p>1-b. 外部講師を招いての勉強会</p> <p>1-c. 語り部の勉強会と資料の整理</p> <p>2. 修学旅行生への防災学習</p> <p>毎回人数の差異がある（10名～250名）。まちのボランティア10人～20人で受け入れる。内容は、先ず映像による被災当時と復興状況、さらに慰霊モニュメントや公園づくり、古民家移築を大勢のボランティアで成し遂げる絆の大切さを伝える。その後、被災地めぐりと炊き出し体験、食事時にまちの人たちと語り合う。</p>	
プランの対象と参加人数	震災学習に御蔵地区を訪れる中学生約2200名 日本全国で防災を学ぶ中学生	
実施日時	2006年4月から2007年1月 38回	
主な実施場所	神戸市長田区御蔵地区	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	①御蔵通5・6・7丁目町づくり協議会（2006年12月解散） ②神戸長田コンベンション協議会 ③長田区役所
	連携したきっかけ・理由	①地元の組織であるため ②御蔵地区を含め、長田区内における修学旅行生向けの体験学習の窓口になっているため ③御蔵から近く大会議室を、大人数の防災学習の際に使わせてもらえる
	連携団体へのアプローチ方法	①以前から一緒に活動をしていた ②区内での体験学習受け入れにあたって連携してきた ③修学旅行生の人数が多いときに、場所を貸して欲しいと相談した
	連携団体との打合せ回数	①2時間×6回 ②1時間×4回 ③30分×2回
	連携団体との役割分担	①修学旅行生の受け入れを実際に一緒に行う ②旅行社などからの申し込みの窓口 ③会場の貸与

II プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	3名
	外部スタッフの総人数	3名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 戸田真由美（まち・コミュニケーションスタッフ） 企画 宮定章（まち・コミュニケーション代表） 震災学習責任者 田中保三（元 御蔵通5・6・7丁目会長） 会計 竹内千恵子（元 御蔵通5・6・7丁目副会長）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2005年 11月 ～ 2006年 1月
	立案時間	12時間
	上記のうち打合せ回数	1時間半 × 5回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	多くの人が参加でき、語り部が増えるようなプランにすること 語り部は年配の人が多いため、語り部が関わる部分は無理のないスケジュールにすること 阪神・淡路大震災における御蔵地区の事実を、できるだけ探ること	
プラン立案で 苦労した点	どのような形で資料をまとめれば、今後に生かすことができるか	

III 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	5名
	外部スタッフの総人数	7名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 戸田真由美（まち・コミュニケーションスタッフ） 企画 宮定章（まち・コミュニケーション代表） 震災学習責任者 田中保三（元 御蔵通5・6・7丁目会長） 震災学習受け入れ窓口 東充（神戸長田コンベンション協議会） 会計 竹内千恵子（元 御蔵通5・6・7丁目副会長） 事務 吉田信昭（まち・コミュニケーションスタッフ） 資料作成 藤川幸宏（まち・コミュニケーションスタッフ） 記録 浮田徹（まち・コミュニケーションスタッフ）
準備に要した日 数・時間	準備期間	2006年 2月～ 2006年 12月
	準備総時間	2時間× 7回 5時間× 10回
	上記の内打合せ回数	2時間× 6回

教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
	どのように働きかけたか	勉強会にてセンターを実際に訪れ、どのような展示があるのか知るとともに、センターの語り部との話や情報交換ができる場を設定
	結果	施設を見学し、語り部と対話をすることで、逆に、御蔵地区でどのような防災教育ができるのかを考え、実践するきっかけになった。
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	地域住民全体
	どのように働きかけたか	勉強会や修学旅行生受け入れの参加を呼びかける
	結果	勉強会や修学旅行受け入れに参加してくれる人が増えた
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	① 地域に残る震災前や震災後の写真 ② ノートパソコン ③ スクリーン、プロジェクター
	入手先・入手方法	① 周辺住民などからの収集 ② まち・コミの所有物 ③ レンタル
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	① 地域の写真を改めて見ることにより、阪神・淡路大震災や震災前の町のことなど、忘れかけていたことを、再び思い出すことができるから ② 写真を映すために使用。勉強会の参加者全員が同じ写真を見ることで、一人の話に共感したり、また違う体験を語ったりすることができる ③ 写真を映す際に必要
参加者の募集	募集方法	チラシの配布と、口コミ
	募集期間	2006年 2月～ 2007年 2月(以後も継続)
	参加予想人数	20名
	実際の参加人数	27名
	募集方法の成功点	チラシだけでなく、直接呼びかけも行ったことで、より勉強会に参加しやすい雰囲気が出たこと。
	募集方法の失敗点	チラシだけを見た人には、勉強会と位置付けたこともあり、参加しづかったことも、考えられる
準備で苦労した点・工夫した点	写真はスキャナで取り込み、プロジェクターで映して、全員が同じ写真を見ることができるようにした。 勉強会で参加者の体験を聞くにあたって、できるだけ全員が発言できるよう(発言者が偏らないよう)、事前に話すテーマを決め、司会進行者が発言の整理をするということを決めていた。	

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月	8 第1回打ち合わせ「当地区防災学習における問題点の話し合い」 →問題点のヒアリング 17 第2回打ち合わせ「問題点のまとめ作業」		
12月	4 第3回打ち合わせ「11月に話し合い、集めた問題点から、実際に当地区が今後震災学習をするにあたって、必要な事柄を検討」 12 第4回打ち合わせ「第3回と同じ」 →申請書の作成		
2006 1月	15 第5回打ち合わせ「具体的なプランの作成」 →申請書の完成		
2月		3 第1回打ち合わせ「プランの実践に向けて」 6 勉強会「御蔵地区スライドの内容について」 10 区役所への連絡「春の受け入れ予定について」 11 神戸長田コンベンション協議会との打ち合わせ「春の受け入れ予定について」	
3月		3 勉強会「町歩きの際の生徒との会話について」 ○学校や旅行社との修学旅行受け入れに向けての打ち合わせ（2006年度春分）	
4月		8 勉強会「人と防災未来センター訪問」 11 第2回打ち合わせ「これまでの勉強会のまとめと反省と改善策」 ○学校や旅行社との修学旅行受け入れに向けての打ち合わせ（2006年度春分）	18 新潟 五十嵐中学校 25 富山 福岡中学校 26 富山 井波中学校 26 富山 庄川中学校 27 金沢 野田中学校
5月		○学校や旅行社との修学旅行受け入れに向けての打ち合わせ（2006年度春分）	9 東京 高井戸中学校 13 富山 奥田中学校 18 岡山 倉敷第一中学 21 高知 大津小学校 22 横浜 いずみ野中学 24 山口 美和中学校 25 岐阜 藍川中学校 25 岐阜 加納中学校 26 岐阜 関ヶ原中学校 30 愛知 神の倉中学 31 愛知 日比野中学校
6月		5 勉強会「食中毒対策について」 9 第3回打ち合わせ「これまでの勉強会のまとめと反省と改善策」 ○学校や旅行社との修学旅行受け入れに向けての打ち合わせ（2006年度春分）	2 岐阜 藍川北中学校 6 愛知 北陵中学校 8 岐阜 桜ヶ丘中学校 16 神奈川 上溝中学校 23 神奈川 芽ヶ崎第一中学校

7月		8 勉強会「体験を伝えること 災害直後と避難所1」 12 神戸長田コンベンション協議会との打ち合わせ「春の受け入れの報告」	
8月		1~3 勉強会「体験を伝えること 専修大学学生との共同作業」 6 第4回打ち合わせ「これまでの勉強会のまとめと反省と改善策」 8 区役所への報告「秋の受け入れについて」 8 神戸長田コンベンション協議会との打ち合わせ「秋の受け入れについて」	
9月		1 勉強会「体験を伝えること 災害直後と避難所2」	19 東京 稲城第六中学
10月		18 勉強会「中学生に話すということ 遠藤勝裕さんを迎えて」 29 第5回打ち合わせ「防災チャレンジ中間報告の報告」	17 北海道 札幌旭丘高校
11月		10 勉強会「震災を伝えること 仮設住宅のこと」	17 東京 日大第三中学 18 千葉 八千代高校
12月		7 勉強会「震災を伝えること 震災から1ヶ月以降のこと」 12 第6回打ち合わせ「秋の受け入れを終えて」 13 神戸長田コンベンション協議会との打ち合わせ「秋の受け入れの報告」	3 仙台工業高等学校 土木課 4 宮城 富谷高等学校
2007 1月		19 勉強会「昨年の修学旅行受け入れを振り返って これからわたしたちができること」	

V実践の詳細 【A. 素材】(メインとなる活動を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	スライドにて御蔵地区の震災の状況を伝える	語り部への質問	まち歩き	炊き出し体験
実施日	4/18ほか 38回			
所要時間	30分	30分	30分	2時間
達成目標	御蔵地区が阪神・淡路大震災でどのような被害を受けたのか。また、どのような被害が出たのか、復興までどのような道のりを歩んだのかを伝える。	生徒から質問をしてもらうことにより、これまでの学習の中で、疑問に思っていることに答える。	語り部が先導して、現在の御蔵の町の状況を見学。焼け残った桶や電柱、住民が協力して震災後作った慰霊碑や自治会館を、語り部の解説のもと、実際に見る。	語り部の指導の元、炊き出しを体験する。メニューは豚汁、ご飯、お漬物。体験することで、炊き出しとはどういうものか、被災者にどうして喜ばれたのかを知ってもらう。
生成物				
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ●まち・コミュニケーションのスタッフが、スライドで写真を映しながら、震災での被害を説明 ●修学旅行生の学校の周辺地図もスライドの最後に入れておき、自分たちがどういう町に住んでいるのか、考えるきっかけをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ●質問のある生徒が手を上げ、質問する ●質問の内容によって、その体験をした語り部が話をする ●質問が出ない場合は、今までの震災学習での感想を聞くこともある 	<ul style="list-style-type: none"> ●グループに分かれて、語り部の先導の元、町を歩く ●町の中でも何箇所は、立ち止まって、ファイルに入れた写真を見せて話をする 	<ul style="list-style-type: none"> ●食材を切る担当と、火の番担当に分かれ、語り部の指導の元、調理をする。 ●配膳の段取りを決め、人数を確認し、早く全員に食事が行き届くよう考え、行動する。 ●語り部とともに食事をする。この時にできるだけ、生

				徒たちに震災の話を伝えるようにする。 ●食事が終わると、全員で手分けして、片付けと掃除をする。
ツール (特別に用意したもの)	スライド		語り部の名札 写真ファイル	鍋、釜など、炊き出しに必要な調理器具と食器、食材
場所	自治会館 もしくは 区役所会議室	自治会館 もしくは 区役所会議室	地区内全域	自治会館と周辺

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	語り部の勉強会「人と防災未来センター訪問」	語り部の勉強会「食中毒対策について」	語り部の勉強会「体験を伝えること 専修大学学生との共同作業」	語り部の勉強会「中学生に話すということ 遠藤勝裕さんを迎えて」
実施日	4/8	6/5	8/1~3	10/18
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	阪神・淡路大震災を伝える施設「人と防災未来センター」に行き、展示を見、センターの語り部の話を聞くことで、御蔵地区での現地学習をより充実したものにする。	修学旅行生との炊き出し体験を実施するにあたって、食中毒の対策も知識として知っておき、炊き出し体験の際に、手を洗う、まな板を洗う、十分に火を通すなど、注意を	専修大学の学生へ震災体験を語る。学生は聞いた話を文章にまとめ、語り部は、自分たちの話がどのように伝わっているのかを知ること、今後の、震災体験を話す際の	中学校へ出向いての講演をされている、元日銀神戸支店長の遠藤勝裕さんを迎え、遠藤さんは中学生へどのような言葉で伝えているか、どのような資料を使っているか

		する。	参考にできる。	など、今後の語り部の活動に生かすヒントをもらう。
生成物			学生によりヒアリングのまとめ	
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ●見学ルートに沿って、映像や展示の見学をする ●語り部の震災体験談を聞く ●中学生に話をする際に、どのようなことに注意しているかなど、語り部として心がけていることを教えてもらう。 ●センターを見学し、語り部の話を聞いてどのように思ったか、感想を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保健所の方を講師に、食中毒対策の話聞く ●質問をする ●炊き出し体験の際に、どういう注意が必要か、考えまとめる ●石鹸やペーパータオルなど、必要なものを購入することを決定 	<ul style="list-style-type: none"> ●学生が二人一組となり、語り部の話を聞く ●学生が、聞いた話を文章にまとめる ●まとめた文章を見て、今後の語り部活動に生かす 	<ul style="list-style-type: none"> ●遠藤さんのお話（講演形式）を聞く ●質問をする ●フリートークの時間をづくり、交流する
ツール (特別に用意したもの)			震災前後の地区の写真	
場所	人と防災未来センター	御蔵通5・6・7丁目自治会館	御蔵通5・6・7丁目自治会館ほか	御蔵通5・6・7丁目自治会館

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	語り部の勉強会「御蔵地区スライドの内容について」	語り部の勉強会「町歩きの時 の生徒との会話について」	語り部の勉強会「体験を伝える ということ」災害直後と避難 所について 2回、仮設住 宅のこと 1回、震災から1 ヶ月以降のこと 1回	
実施日	2/6	3/3	7/8 9/1 11/10 12/7	
所要時間	90分	90分	90分×4回	
達成目標	中学生への学習で使用する スライドを、語り部で再度み ることにより、それぞれの意 見や、体験を盛り込み、中学 生との対話に役立つものにな るよう、写真の差し替え や、解説内容などを再検討す る。	語り部の一人一人が、生徒た ちにどのような話をしている のか、発表しあうことによっ て、今後の町歩きに生かす。	勉強会ごとのテーマで、一人 一人の体験を語ることによ り、他の語り部がどのような体 験をしたのかを知る。そのこ とで、生徒からの質問に答え るとき、自分が直接体験して いなくても、他の語り部の経 験として話をしたり、その返 答ができる語り部を教える ことができる。	
生成物	スライド			
進め方 (箇条書き)	●全員でスライドを通して 見る	●町歩きでポイントになる スポットの写真を用意	●その日のテーマを説明 ●一人ずつ、自分の体験を話	

	<ul style="list-style-type: none"> ●スライドの中で気になったところや改善点を話し合う ●新しい写真の挿入が必要なところも検討する ●話し合いの結果を反映して、後日新しいスライドを完成させる 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真のポイントで、語り部それぞれが生徒にどうい話をしているのか、その話をすることでどういう反応があるか、発表する ●最後に、どのスポットでどうい話ができるのかをまとめる 	していく <ul style="list-style-type: none"> ●同じような体験をした人の有るなし、特異な体験、また同じ場所での体験など、聞いた内容をまとめる 	
ツール (特別に用意したもの)		町歩きのポイントの写真		
場所	御蔵通5・6・7丁目自治会館	御蔵通5・6・7丁目自治会館	御蔵通5・6・7丁目自治会館	

VI実践後

<p>参加者へのアンケート結果</p>	<p>○「地震は防ぐことができないけれど、考えて、訓練など、体験したりすることが大切だということです。震度7の地震なんて想像つかないくらいこわいけど、でも、茅ヶ崎におきた時に活躍できる中学生になりたいです」</p> <p>○「語り部の言葉には、悲しみや、人の命の重みが感じられました。」</p> <p>○「震災学習をしてとても多くのことを学びました。こういうときはこうすればいいなどと、とてもわかりやすく教えてくれました。自分の家でも、習ったことをやってみたいと思いました。自分たちの質問にも、できるだけ詳しく答えてくれて、とてもうれしかったです。」</p> <p>○「地震での被害などの話を聞き、今の生活を見直し、地震に備えた生活をおくられるように努力しなければならないと強く思いました。」</p> <p>○「地震についてのお話を聞き、対策や準備はとても大切なことなんだと感じました。近所とのつながりで、助けることができたり、助けてもらうことができたりするんだ、と思いました。よく知っている人が地震で助けることができずに死んでしまったら、とても悲しいと思います。そうならないためにも、地震が起こったときに、できるだけたくさんの人たちを助けることができるようになりたいと思います。」</p>	
<p>成果として得たこと</p>	<p>○生徒たちが、これから先、自分が被災者になる可能性があり、その心構えが必要だということを知ることができた</p> <p>○生徒たち自身が、自分がボランティアとして、何ができるのかを考えるきっかけをつくることができた</p> <p>○生徒たちが暮らす地域が、どういう地域なのか。となりの家との距離がどれくらいあるのか、となりの家は何人家族か、自分を助けてくれる人がどれくらいいるのだろうか、を考えるきっかけをつくることができた</p> <p>○阪神・淡路大震災を体験した語り部が伝わったことを伝えることで、生徒たちが災害への備えて、今から何ができるのかということに興味を持ってくれたこと</p> <p>○自分の体験を伝えていかなければならないという、語り部の思いを、修学旅行生を受け入れることにより、実現できたこと。</p>	
<p>成果物</p>	<p>○震災学習のスライド</p> <p>○語り部の手引き</p> <p>○受け入れスケジュールシート</p> <p>○まちあるきマップ</p> <p>○まちあるき 語り部用 写真ファイル</p> <p>○語り部の体験談</p> <p>○生徒たちからの感想文</p>	
<p>広報方法</p>	<p>広報した先</p>	<p>サンテレビ、日経新聞、神戸新聞</p>
	<p>広報の方法</p>	<p>今年度の取り組みについて、電話で連絡</p>
	<p>取材にきたマスコミ</p>	<p>サンテレビ、日経新聞、神戸新聞、少年写真新聞社、大阪ボランティア協会雑誌「ウォロ」</p>
	<p>広報された内容(掲載された記事・番組等)</p>	<p>○サンテレビ：「震災を語り伝える」語り部一人ずつの紹介</p> <p>○日経新聞：4/13 朝刊 語り部の勉強会</p> <p>○神戸新聞：5/29 夕刊 語り部の勉強会</p> <p>○少年写真新聞社：大地震の教訓</p> <p>○ウォロ：6月号特集「語る」ということ</p>

	成功点	<p>○サンテレビは、語り部一人一人の体験を、7分程度の番組に編集していて、記録として役に立つ</p> <p>○自分たちの活動が注目されているという実感をもつことができた</p> <p>○語り部をしていない地域の人にも、内容を伝えることができた</p>
	失敗点	<p>○修学旅行生を受け入れ、震災学習をしているということよりも、語り部が勉強会をしている、ということの方に注目されることがあり、残念に思う。</p>
全体の感想と 反省・課題	<p>○生徒や先生から、たくさんの感想文やお礼状をいただくなど、防災学習として充実したものができたと思う。</p> <p>○学習の申し込みが増え、要望が多様化してきている。学校によって事前学習をどれだけしているか、差が大きい。その中で一地域が、各学校にあわせた防災学習プランを提案し、実行するということが、むずかしい。できるだけ、事前学習のレベルに合わせた現地での学習ができるよう、学習の内容を改善していきたい。</p> <p>○今後、長く継続していくためにも、語り部を増やし、一人一人の負担を軽減することが課題。</p> <p>○震災から時間がたつにつれ、生徒だけでなく、先生も、阪神・淡路大震災をリアルタイムで知らないということが増えてきている。テレビや新聞ですら、阪神・淡路大震災の情報を目にしていない人へどのように伝えていくか、今後改善が必要だろう。</p>	
今後の予定	来年度以降の進め方	<p>○今年度から引き続き、語り部の勉強会と、修学旅行生の受け入れを続けていく</p> <p>○研修旅行（沖縄や広島の語り部に会う）も検討中</p>
	是非実施してみたい 取り組み	<p>○沖縄や広島などを訪問し、戦争の語り部との交流や意見交換</p> <p>○修学旅行の常連校へ訪問し、地域を見学する。より生徒の暮らし環境に則した、震災学習をすることが目的。</p> <p>○修学旅行受け入れ前に、学校を訪問しての事前学習</p>
自由記述	<p>●今後も引き続き、多くの方のアドバイスをいただきながら、修学旅行生への震災防災学習を続けていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p>	